

奈良県中央卸売市場運営協議会の概要

- 開催日時 令和7年2月10日（月） 10時00分～11時30分
- 場 所 奈良県中央卸売市場管理棟3階大会議室
- 出席委員 14名（順不同）
浦出会長、川口委員、池田委員、藤野委員、上田委員、平井委員、
栗原委員、川井委員、吉岡委員、川端委員、岡田委員、西川委員、
吉田委員、熊田委員
- 欠席委員 3名（順不同）
川西委員、高谷委員、岡波委員
- 議題 (1) 会長の選出 → 浦出委員が会長に就任
(2) 「奈良県中央卸売市場再整備の基本方針実施プラン（案）」について
→ 承認

■議題に関する出席委員からの意見の概要

- 市場エリアと賑わいエリアの一体的な整備をどう行うか、奈良県の食の拠点としての本市場をどのようにつくっていくのかが課題。少しでも早く整備を進めてほしい。
- 賑わいエリアに来た一般消費者が市場エリアでも買い物ができるのと小売業者の商売が成り立たない。仲卸の一般消費者への販売に関するルールはしっかり整備してほしい。
- どの市場の再整備でも、市場エリアと賑わいエリアの両方を整備している。今後の市場を取り巻く環境変化に対応できる市場施設の整備をおこなってほしい。
- 両エリアの親和性については、市場事業者の意見を取り入れて検討を進めてほしい。
- 維持管理・運営費を抑えられる設計が大事である。そのためには、将来予測をしっかりと立てたうえで、施設のコンパクト化を図ることが重要。
- 今後の賑わいエリアの整備方針の検討を進めるにあたって、賑わいエリアのアイデア提案については、運営協議会で共有してもよいのではないか。
- 賑わいエリアは公的資金を導入して維持管理を行うべき。再整備の報道がないため、地元は事業が止まったと受け止めている。広報についてもよく考えてほしい。
- 奈良県の農作物は、量は少ないが質は良い。生産者が出荷しやすい市場にしてほしい。
- 賑わいエリアについても、敷地が空いたところから整備に着手してほしい。良い市場ができることを早く告知し、市場に来る荷物が減らないようにしないといけない。
- 2024年問題で、輸送に関する制約が多くなってきている。これからは運送業者から選ばれる市場にならなければいけない。
- 使用料が高くなっただけで、使いにくい施設になっては困る。奈良と都市部では商流が異なる部分もあるので、市場事業者の意見も取り入れながら整備をすすめてほしい。
- 使用料を下げしてほしい。賑わいエリアで新しい商売を考えられるようにしてほしい。
- 整備期間が長すぎるので短縮できないのか。物流面においても、国道25号線の拡張など、アクセスの強化が必要。